

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

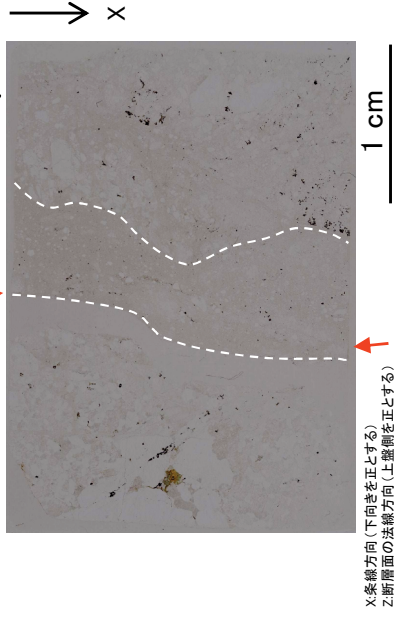
コア写真

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

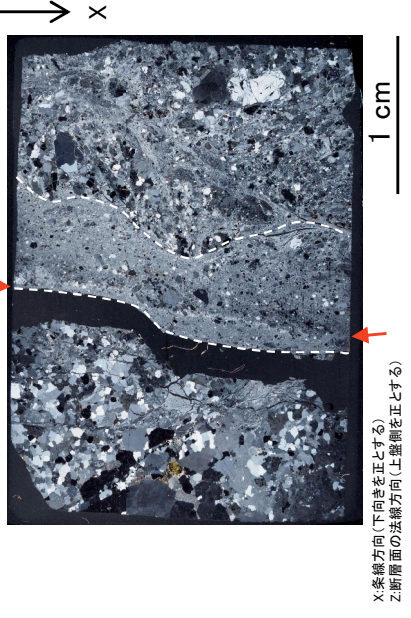


凡例  
 ← 破砕部範囲※  
 → 断層面  
 ※: 写真上は白色で記載

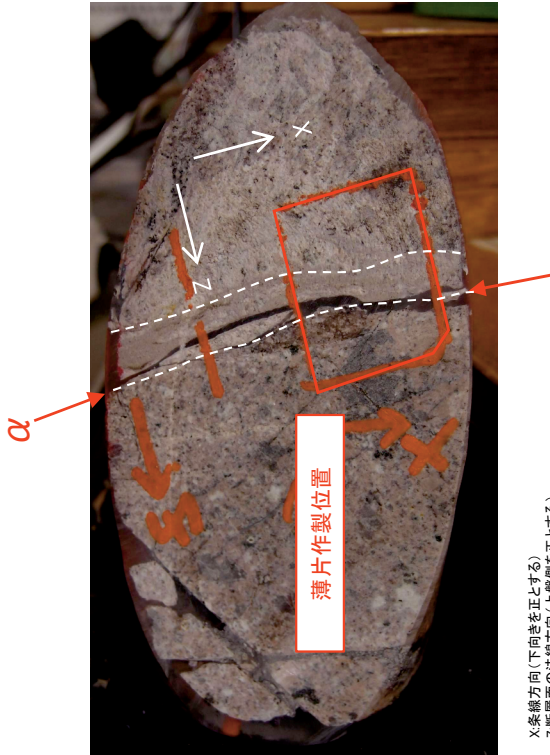
薄片全景写真(単ニコル)



薄片全景写真(直交ニコル)



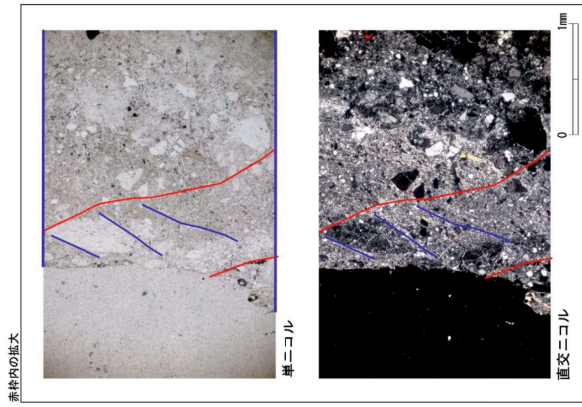
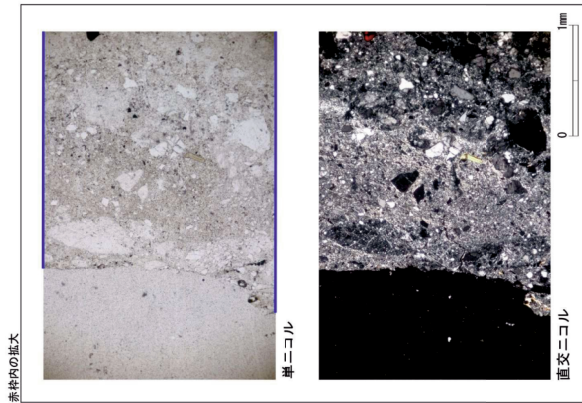
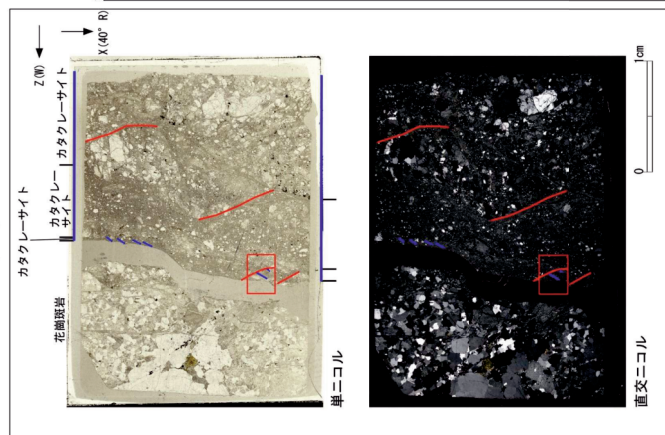
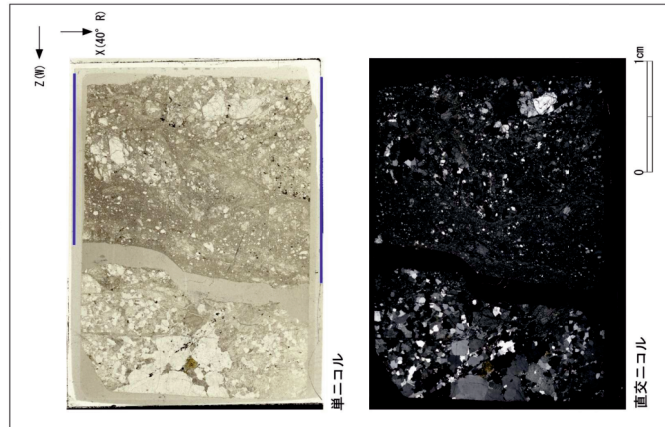
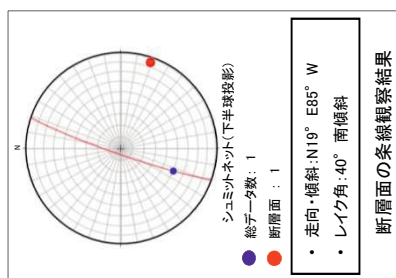
薄片作製位置写真



凡例  
 ----- 肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 → 断層面  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載

- H24-B14-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う正断層である。
- 最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトであると判断した。
  - (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 岩片は少ない。
  - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面



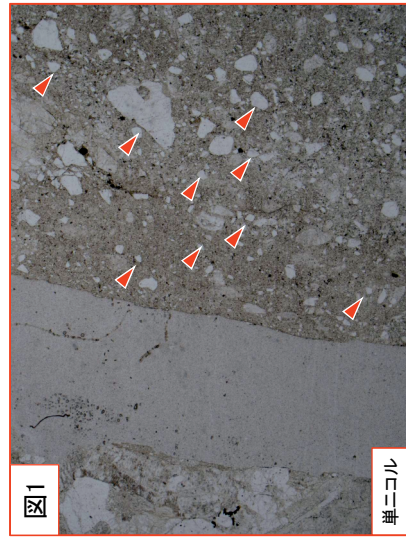
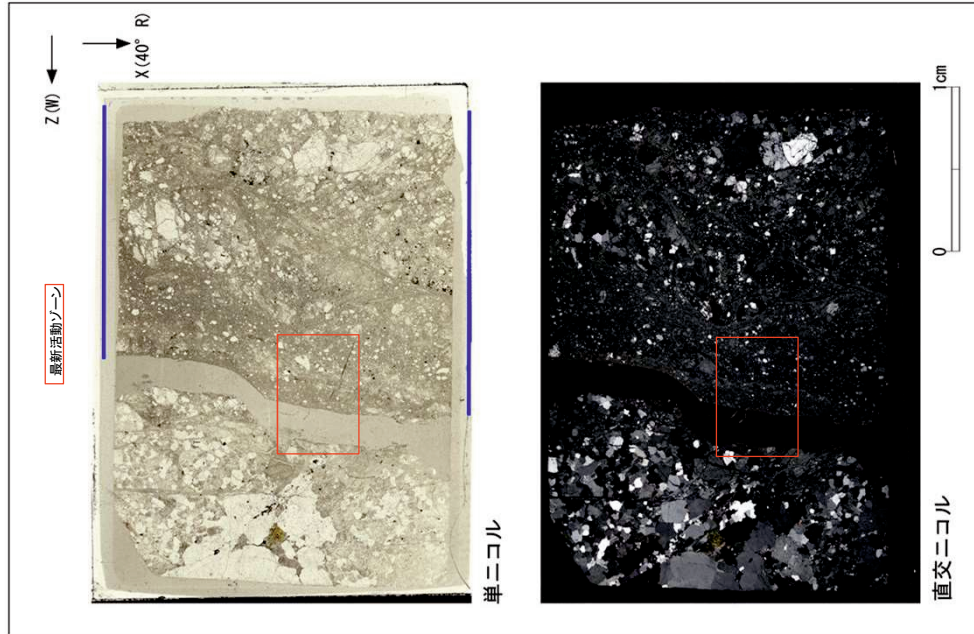
凡例	断層ガウジ
	カタクレーサイト
	R1面
	P面

第7. 4. 4. 360図 (3) 破碎部性状 H24-B14-1 深度70.54~71.41m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))

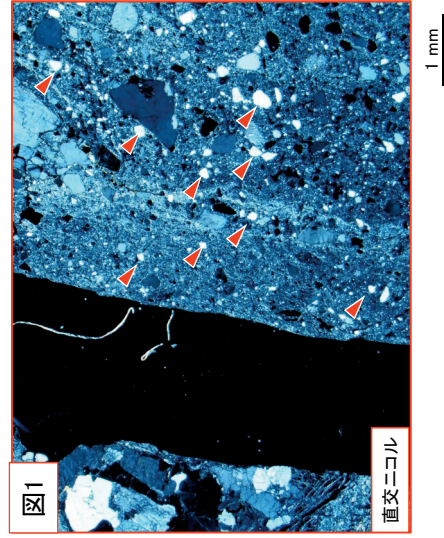


・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。

- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
- 岩片は少ない。(図1)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図1)



赤三角は丸みを帯びた岩片を示す



(肉眼観察結果 深度70.54m)

- 深度70.54～70.74mの「角礫状」と記載の箇所については、やや硬質～硬質で、含まれる細粒部は一部で網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから一部変質したカタクレーサーサイトであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、断層ガウジの特徴が認められなかった。
- 丸みを帯びている岩片が多いが、基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から一部変質したカタクレーサーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「角礫状」と記載の箇所については、その特徴から一部変質したカタクレーサーサイトであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサーサイトであると判断した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	-	-

\*：断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合「一」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。



・深度76.94～77.03mの「粘土混じり砂礫状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・深度76.94mには淡黄色粘土脈を挟んでいる。幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、粘土は軟質で、連続性は一部で不明瞭になるが、直線性が良い。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。



ボーリング柱状図

●76.94～77.03m：破砕部  
上端60°，下端40°でいずれも直線的。

76.94～77.03m：粘土混じり砂礫状部(Hb)  
明赤灰色粘土が網目状に微細な砂礫間に挟む。せん断面と調和的で不連続な幅0.5mmで褐色化する淡黄色粘土脈が見られる。褐灰色を呈する。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破砕部範囲※  
 ※:写真上は白色で記載

淡黄色粘土は一部不明瞭となるが、直線性は良い



・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真



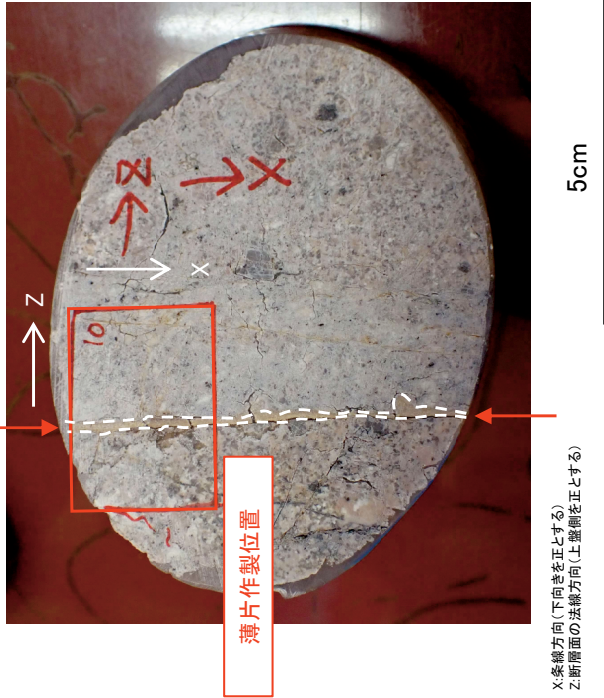
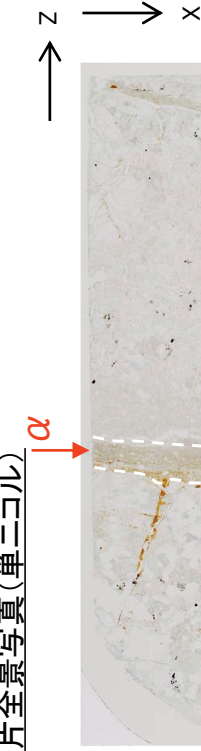
※断層面  $\alpha$  は最新活動面

凡例

断層ガウジ  
 断層面  
 破砕部範囲※  
 ※: 写真上は白色で記載

薄片作製位置写真

薄片全景写真(単ニコル)



X: 糸綫方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法綫方向(上盤側を正とする)

X: 糸綫方向(下向きを正とする)  
Z: 断層面の法綫方向(上盤側を正とする)

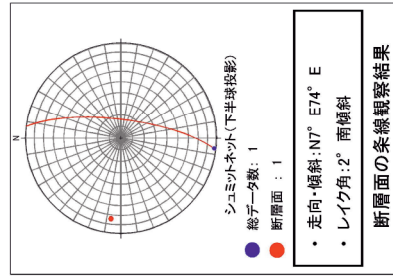
1cm

凡例

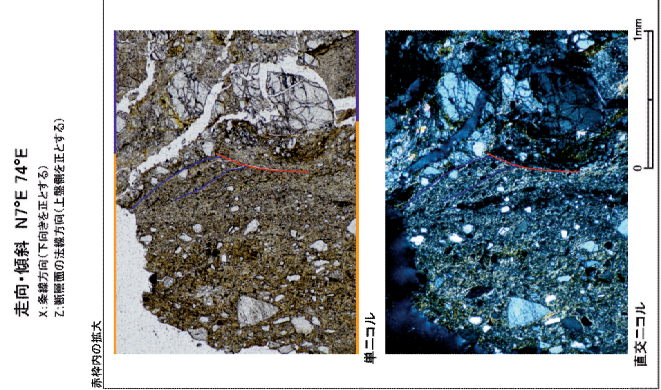
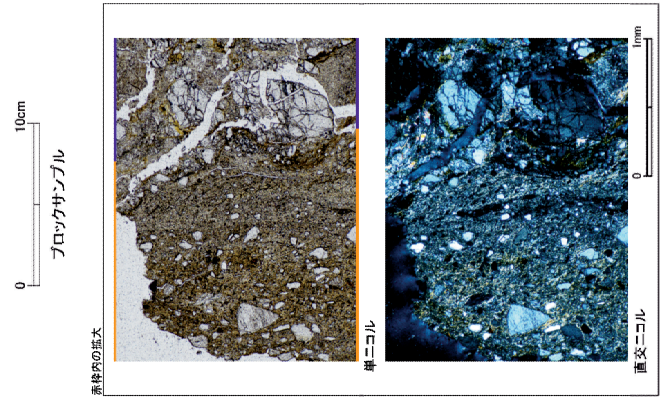
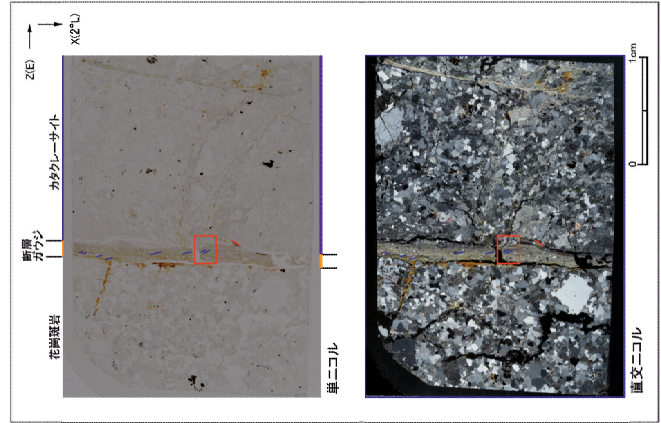
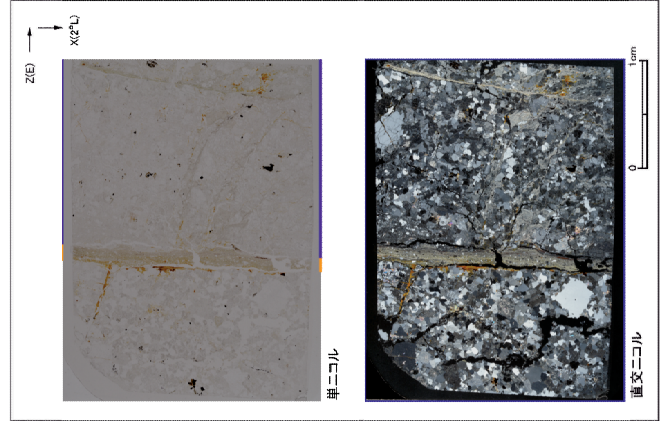
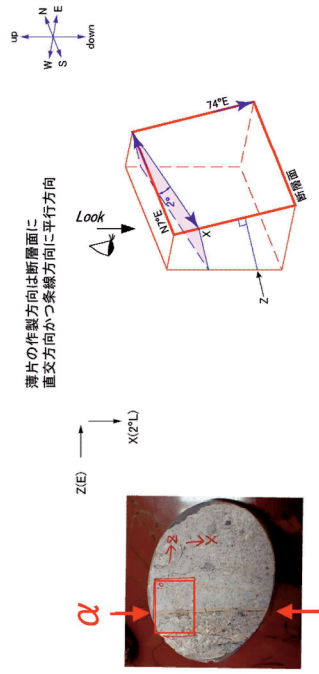
肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※  
 断層面  
 ※: 写真上は白色又は黒色で記載



- ・H24-B14-1のボーリングゴアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位セシスは、右ずれ成分が卓越する。
- ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。
  - (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 岩片は少ない。
  - (断層ガウジ) 丸みを帯びている岩片が多い。



※断層面  $\alpha$  は最新活動面



凡例	
—	断層ガウジ
—	カタクレーサイト
—	R1面
—	P面

第7.4.4.361図 (3) 破砕部性状 H24-B14-1 深度76.94~77.03m (変位セシス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))